

## 令和3年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、授業をより良く改善するため、前後期末に学生による授業アンケートを実施している。また、授業担当教員からは、その結果を踏まえた授業改善メモを提出してもらい、内容をとりまとめ、ホームページ上に公開している。この授業改善メモには、教育改善のための有益なコメントや要望等が多数含まれている。

以下、令和3年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを、1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間、2. 受講生が実感する学習成果、3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み、4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点、5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）に分類し紹介する（同様の内容に対しては、代表的なもののみ残した）。共通教育センター及び部門内で検討すべき内容の抽出の為に、全記録内容を別途 manaba の「共通教育 FD」にて提示する。

### 初年次セミナーII

#### 1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・本講義では事前学習、事後学習が設定されており、ある程度学習時間は確保されていると思われる。
- ・（授業時間外学習について）30分から1時間30分が回答者の約8割。
- ・文献調査のやり方の説明動画も準備すると良い。
- ・（授業時間外学習に）時間をかければよいというものではないと考えている。
- ・概ね1時間30分であり、当初の目的を一定程度達成した。
- ・学習時間と成績との間にはっきりとした相関が見られ、学習時間が週1時間未満の学生の割合が不合格になる学生の割合にほぼ対応することが分かった。客観的な事実が出てきたので、開講時にこれを提示し、十分な学習時間を確保する努力を促す。

#### 2. 受講生が実感する学習成果

- ・対面で行う授業回が多く他の受講生と交流を持てることも大きかったと思われる。
- ・テーマが適切に設定できていない場合に、学習効果が実感できていないと思われる。
- ・終盤で大幅な（レポート）テーマの修正が生じないようにする。
- ・ほとんどの学生が学習効果を実感していた。学習前と学習後の変化を、学生自身が意識できるように授業中に促した。

- ・課題ワークシートに対するフィードバックを充実させる。しかし、TA や学習アドバイザーを確保する為の財源が必要となる。
- ・実際の最終レポートは、(内容に) 不足の多い学生がいたことも事実であり、アンケートでは拾えない学生の支援が重要である。

### 3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・対面による直接的な働きかけが大きいと思われる。
- ・R2 年度に比べると、かなり改善された。課題ごとに、何を目標しているのかを、より明確にしていきたい。
- ・重要な点は、繰り返し説明した。希望者には細かく添削した。やるべき作業を1度にまとめて説明しないようにした。
- ・前期から継続して担当した1クラスは「積極的に促していた」が100%であった。
- ・何を考察するべきか、何を成し遂げなければいけないのか、いわゆる work assignment の内容を理解できていない学生へのフォローが必要である。
- ・オンデマンド授業を実施したり、相互に添削を行いたい人のみ対面としたりするなど柔軟な授業デザインとした点は、概ね好評であったと言える。
- ・実際に学生(匿名)が作成しているレポートを紹介しながら改善点等を指摘する授業を実施した。単に理論的な解説でなく、学生にリアリティを持って欲しかったり、身近な事例で振り返りを促すため、授業独自のアンケートで好意的なコメントが多かった。

### 4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「後ろの席では前のスクリーンの文字が見えない」という意見があった。間隔を取りながらの対面授業であり、後ろの席に座らざるを得ないという状況のためかもしれない。
- ・「遠隔授業の回は、授業に参加している実感が対面授業の回と比べて薄かった」という意見もあった。
- ・「もう少しグループワークの時間を減らしてもいい。」という意見もあった。
- ・「とても良かった」(38%)「おおむね良かった」(62%)で比較的満足度は高かった。対面での授業回が多かったことも理由として考えられる。一方、「もう少しグループワークの時間を減らしてもいい」という意見もあった。
- ・学修内容のポイントがぼやけるきらいがあるようだ。例えの説明や経験談を制限するなどして学修内容にメリハリを効かせる工夫を講じていきたい。
- ・学生から改善が必要と(指摘)された点: 課題が多い。絞ってもらった方が、より深く課題に向き合える/もっと分かりやすい授業にする必要があると感じた/授業中に、先生による個別指導がさらにあると良い/毎回講義予定がずれるにもかかわらず、改善が見られなかった/メインの教員よりもアシスタントが様々なことを話していた点。メインの教員とアシスタントがよくコミュニケーションをとっていたが、話がかみ合っていない

るように感じられなかった点。今後、授業中に実施する内容を絞り込む。授業中の個別指導を増やす。

- ・ 教員自身の経験に基づく講義を行ったので、おおむね良好な評価が得られている。
- ・ 遠隔でも対面と同じような効果が得られるように、授業デザインを考えたい。
- ・ グループワークが多かった点、学生同士で添削する機会があった点は、学生から評価が高かった。
- ・ 情報の絶え間ないアップデートと伝え方の工夫が必要と考える。
- ・ 前期から継続して担当した1クラスは、「とても良かった」が80%を超えており、後期のみ担当した2クラスは平均的である。
- ・ 課題に取り組む意義を丁寧に解説し、学習時間を増やし、その結果満足感が十分得られる様にしていく必要がある。
- ・ 授業で学生のレポートを使ったことについて、多少過激な言葉で批判があった。

#### 5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・ 終盤になるにつれて受講生の準備状況に差が出て、講義が予定通りに進まないことがあった。適切な「問い」のテーマを設定できていなかったことが要因と思われる。終盤の方でのテーマ変更は新たな文献調査も必要となり、受講生の負担も大きい。
- ・ 第9回で提示している適切な「問い」であるかのチェックリストを早い段階で提示するとともにテーマについての個別指導の機会を増やす。
- ・ 学生から指摘があったように、対面と遠隔が混在すると、教員も戸惑うところが大きい。
- ・ クラスに若干名、課題の量に負担を感じている学生がいた。
- ・ 最低限の目標や、最低限の課題の敷居を低めに設定することで、学生の精神的負担を減らしていきたい。
- ・ 前後期同一クラスを担当しなければ精神的に持たないと思うようになった。
- ・ 前後期同一クラスを担当した場合の学生からの評価が高かった。これは、授業方法等に慣れたこと、また、初年次セミナーIから発言力、協働能力、さらには引用ルールの修得等を重視した教育を実施しており、その成果を初年次セミナーIIで学生が実感したからではないかと解釈している。一方、後期のみ担当したクラスでは、グループワークに拒否反応を示したり（指示に従わない）、そもそも意欲が感じられないクラスの雰囲気直面した。
- ・ 本年度に前後期継続して担当したクラスは、前期の初年次セミナーIだけを見れば、やや後ろ向きなクラスであった。しかし、後期には彼ら・彼女らの努力が花開き、発言力も、協働能力も、主体性も大きく伸びた。
- ・ ワークシートで扱う事項が最終レポートでも留意されず、その結果不合格になる学生が続出した。成績に関する事前予告をしたのにも関わらず「自分は大丈夫」と勘違いしていた学生が散見された。各授業回で扱った事項を振り返り、学習不足の事項について自習・質

問によって補うことを勧める必要がある。

- ・全学必修科目であるため学生も「やらされている感」が少なからずある。学生を巻き込んだデザインにするべく、教員の裁量の範囲で、全クラス共通のものから授業の方法やデザインを変更しながら実施した。この時、「なぜこのようにしたのか？他のクラスと異なるが安心してください。」というように、「理由」や「なぜ」をしっかりと学生にも伝わっており、授業アンケートでも好意的なコメントが挙げられた。
- ・授業内容とは別のこと（今後の大学生活への様々な促し唆し）をもう少しできたと思う。

## 体育・健康科学実習

特になかった。

## 日本語・日本事情科目

### 1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「0.5～1時間未満」(25%：4名)、次いで「1～1.5時間未満」「2～3時間未満」(各19%：3名)で、想定内の授業時間外学習時間におおよそ該当しているが、分散傾向にあるのは受講生の日本語能力差によるものと思われる。
- ・学習時間が4時間以上の受講生に対しては負担にならないよう十分配慮しながら対応する。
- ・一部、7(3時間以上4時間未満)、6(2時間以上3時間未満)という回答が見られ、逆に、3(30～1時間)も3名いた。1単位である本授業の予復習の負担が大きい／小さい学生がいる点、改善を図りたい。

### 2. 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」(33%：3名)「おおむね得られた」(44%：4名)と肯定的な評価が過半数以上得られたが、一部の受講生が学習成果を実感できなかった。受講生の関心や日本語能力により合わせたテーマ選びを続けるなどして、学習成果がより得られるよう努める。
- ・受講生の関心と日本語能力に合わせた学習内容選びに努める。

### 3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促した」(67%：6名)「おおむね促した」(22%：2名)と概ね肯定的な評価が得られた。対面授業および遠隔授業（Zoom）での個人指名やグループディスカッションでも意見の掘り下げ等の促しを頻繁に行ったことが、自主的な考察などに繋がった。
- ・オンライン授業であってもリアルタイムに意見表明や交換ができるよう、進め方を一層工夫する（未入国学生へも配慮）。

- ・全て1(積極的に促していた)、2(おおむね促していた)との回答であり、講義への参加にあたって自主的な考察や積極的な参加態度が重要であると学習者が感じたものと解釈できる。

#### 4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・レポート内容の改善方法をもっと教えてほしかったという指摘があった。レポート作成の指導をよりきめ細かに行うとともに受講生の関心のあるテーマをもとに達成感が得られる授業への工夫を続ける。
- ・「ブレイクアウトルームでのグループ別話し合いの時間をもう少し長くしてほしい」という指摘があった。
- ・グループ別話し合いは3名で15分と設定したが、今後は所定の時間内に意見等を話せる意義などを受講生に周知する。
- ・日本語でのプレゼンテーションについて、発表の流れやPowerPointの作成といった内容で学習を深めることができたこと、教員からのフィードバックについても肯定的コメントがあった。

#### 5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・対面授業の方がより学生の反応などを把握しやすくクラス管理もしやすいということであらためて実感した。また、日本語能力差が激しいクラスでの個別指導の更なる必要性も認識した。
- ・自主的な発言には加点することを周知した結果前期より積極的に授業に取り組む受講生が多かった。
- ・オンラインの良さを活かしながら、個々の学生に配慮した授業が進められるよう改善に努めたい。

## 英語

### 1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・manabaでのe-learningシステムを利用し、ドリル等をオンラインで実施するようにしたため、去年より授業外学修時間が増加している。
- ・課題を多くするとともに、受講者がもう少し勉強したいと感じるような工夫を検討したい。

### 2. 受講生が実感する学習成果

- ・学習成果を得られたと実感している受講生が多かった。課題の量は多めだったが、見直し解説などを丁寧に実施した結果、成果を実感できたのであろう。

- ・再履修クラスへの対応として、さらに踏み込んで feedback の回数を増やして、事前課題の分量を加減する方向で改善の糸口をつかみたい。
- ・「十分得られた」が 10 名、「おおむね得られた」が 7 名で、それ以外はなかった。未回答の者が 21 名いることが気になる。
- ・回答者の約 7 割が、程度の差こそあれ、学習成果を実感してくれている。具体的には、基本的事項の確認や英語の実践的運用力の向上等において、概ね効果を実感しているようだ。

### 3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・自主的な取り組みを促していたでは、83%がおおむね促していたと回答しているが、プレゼンのそれぞれ異なるトピックについてのアドバイスは時として困難な時もあった。将来を荷う学生に対してのアドバイスは、教師自身の深い現状把握が必須であると感じた。
- ・社会問題に関する文章を読んで調べ学習を行ない、グループ内とクラス内で英語でディスカッションを行った。チャレンジングな内容ではあったが学生からはとても好評だった。使用したトピックが好評だったので次年度も今回使用した教科書を継続して使用したい。English Central や manaba を利用した課題の出し方についてももう少し工夫を行う。
- ・「積極的に促している」が 4 割、「おおむね」が 6 割であり、やや不十分と感ぜられる。アクティブラーニング的な課題を設定したり、自ら考える場面を設けるなどの工夫を検討したい。・ポートフォリオを活用し、振り返り等の実践をより充実させていきたい。

### 4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・Zoom の Breakout Room を教員が巡回するだけでは学生たちの様子が見えにくい。願わくば、一人ひとりが自らの役割等を自覚し、それにふさわしい言動がとれるよう導きたい。
- ・受講生からの指摘には、動画や写真による文化紹介を評価する意見が見られた一方、コロナ禍もあって受講者同士のコミュニケーションが取りづらいことへの不満が見られた。受講者からの指摘も考慮して、全体的な満足度の向上を目指したい。
- ・欠席者がいると発表がきつくなったり、出席しても参加していない人がいたので個別に対応しても良かったのでは、という意見があった。英語が苦手な人、コミュニケーションの苦手な人もおり、遠隔授業でただでさえストレスを感じやすいので、いかに良い雰囲気を作るかが大事だと感じる。
- ・総合的に満足してくれている。英会話力向上のための授業において、実践的な英語運用活動に努めたからだと思う。授業内容に関しては、賛否両論ある。例えば、日常会話レベルに必要な基礎的事項を扱くと、「丁寧で分かり易い」反面「新たな学びが無い」となる。解決策は、「いかに受講生の主体的活動を排除せずに、彼らの知的好奇心を満たすべく、

出来るだけたくさん教科書を進めるか」だとわかってはいるが。

- ・社会問題についての知識が得られてよかった、対面授業ではなかったが zoom でも十分な学習効果が得られたというコメントが見られた。今後も最新的话题を取り入れながら学生にとって興味深く学びにつながるような授業を行う。Zoom を使用した指導についてもさらに工夫を行う。
- ・満足度は高く、ブレイクアウトルームでの交流活動がよかったとの意見が多く有った。実践的なコミュニケーション能力を高めるため、コロナ禍であってもオンラインを活用し、学生同士の協働やインタラクションの場を提供していきたい。

#### 5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・ 今後は、専門の語学関連科目の予習・復習に動画を活用したい。
- ・ 発表の経験を重ねるうちに、内容も良くなっていき、素晴らしい発表をしたグループは他のグループの受講生にも良い影響を与えていたと思う。英語によるコミュニケーションも、グループメンバー間での日本語でのコミュニケーションも対面の方がより適切だと思われる。
- ・ グループワークの際、グループ分けを一律に名簿順だったが、学生同志どうしても一緒にしたくないと異議が出た場合、平等に扱うという観点で対処方法に困った時があった。
- ・ 遠隔授業の際、manaba のみでは不十分であるので、徐々に Zoom を取り入れていきたい。
- ・ リーダーシップをとれる学生がいるグループと、すべて受け身で接する学生が多くいるグループでは、グループワークの楽しさ・辛さの 2 極化がみられた。
- ・ 遠隔授業の際、個人的に英文添削などを効率化してやれる方法を模索したいと思う。
- ・ コロナ禍で学生同士での関わりが希薄になる中、グループ学習を多く取り入れた授業のスタイルが好評だった。次年度も遠隔授業が続くようであれば、このような学習スタイルを引き続き取り入れていきたい。
- ・ グループ活動と発表が中心なので、Zoom による遠隔形式はやはり限界があるように感じる。対面形式にする方が良いと思われる。

### 初修外国語

#### 1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 課題を多くするとともに、受講者がもう少し勉強したいと感じるような工夫を検討したい。
- ・ manaba での e-learning システムを利用し、ドリル等をオンラインで実施するようにしたため、去年より授業外学修時間が増加している。

#### 2. 受講生が実感する学習成果

- ・学習成果を振り返る機会を設けるなど、達成感を得られるような工夫を検討したい。
3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
    - ・アクティブラーニング的な課題を設定したり、自ら考える場面を設けるなどの工夫を検討したい。
    - ・ポートフォリオを活用し、ふりかえり等の実践をより充実させていきたい。
  4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
    - ・動画や写真による文化紹介を評価する意見が見られた一方、コロナ禍もあって受講者同士のコミュニケーションが取りづらいことへの不満が見られたので、全体的な満足度の向上を目指したい。
    - ・実践的なコミュニケーション能力を高めるため、コロナ禍であってもオンラインを活用し、学生同士の協働やインタラクションの場を提供していきたい。
  5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）
 

特になし。

## 教養教育科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
  - ・学習時間の長さだけでなく、より効果的な学習内容の指示などについて、検討の余地があると思う。
  - ・文部科学省の基準では、2時間の予習と2時間の復習が定められているが、専門科目に費やさなければならない学習時間を考慮するならば、共通教育科目については、1時間程度で十分だと思われる。共通教育科目にも、文科省の基準に相当する授業外学習時間を要求すること自体に無理があると思われる（現実的ではない）。
  - ・今後は自己学習しやすい教材の提供を心掛けたい。
  - ・毎回授業アンケートを課しているが、複数回レポートを課すことで、自習時間を増やしたい。
  - ・派遣留学準備科目と位置付けられており、授業の準備課題として、自己分析のために考える時間が多い。これらを学習時間と定義しているかどうか不明確なため、少なくとも、この授業における学習時間の定義を明確にするべきだと考える。
  - ・期末レポートでは、時間をかけていない者もそれなりにいたので、フィードバックを強めるなどの対応を考えるべきかもしれないが、受講生の数を考えるとこまめな対応は難しい。
  - ・最終発表に向けた準備を課題として示しているが、その準備を前倒しし、フィードバックに時間を割くことを改善策として考えている。
  - ・学習時間が長くても内容を理解できていなければ単なる時間の無駄であるし、たとえ学習

時間が短くても内容を理解できていれば別に構わないと思います。

## 2. 受講生が実感する学習成果

- ・物理を履修している受講生に取っては、少し物足りなさを感じたかもしれない。
- ・生物学に関する基本的情報について理解してもらえたと思う。
- ・大規模教室での実施では、リモートが理解を促進する点を今後どう捉え、いかに活用するのか考察する必要がある。
- ・途中でついて来れなくなってしまったことによると考えられるため、質問しやすい環境を整える予定である。
- ・各回の目標を、低めに設定し、各回の授業後に、できるようになったか確認する。
- ・まずは、シラバスを整備し、不本意な受講を避ける必要がある。また引き続き、学生の理解度や経験度の開きが大きいことを踏まえて、それぞれの学生がそれなりのレベルで「科学レポート」をまとめられる様な授業プログラムに改訂していく様にしたい。

## 3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・自身の担当科目を含む、人文社会科学分野（選択科目）では、受講生の 93%が促しがあったと回答しており、今後とも継続すべきと思う。
- ・自主的に考えるよう講義内で示唆し、また毎回の確認テストでも意見を求めている。知識の差が大きいため、意見を述べさせるような問題は、評価が難しい。
- ・グループワーク等には適さない授業であるが、自主的な考察につながる問いかけを含めるよう、担当教員に工夫を促したい。
- ・大規模型のリモート授業においてアクティブラーニングを導入することは諸刃の刃となることがある。このような形態におけるアクティブラーニングについての研究が必要だと考える。
- ・チャット機能を多用するようになったのは好評だった。一方、zoomでもあり、300人弱の履修生がいることもあり、インタラクティブなやりとりは極めて難しい。
- ・フィードバックの時間が長すぎるという声があったので、40分を超えないように気をつけたい。

## 4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・毎週行った研究の進捗状況発表会が特に良かったとの評価をもらった。
- ・アンケートの回収率が低いため、アンケート回収率の向上をはかる必要がある。
- ・講義で使用するスライドのレジюмеを前もって学生に配布しているが、予習と復習に役立てることができるということで非常に好評であった。
- ・授業形態（オンデマンド、リアルタイム）の通知が遅いとの指摘が多かった。予め担当教員から授業形態の情報を集め、開講時に全授業の方法を提示したい。

- ・教員によるマイクコントロールや、BOR の設定の記録など、ソフトウェアの開発が進めば解決する問題も多い。
- ・今後は、映画だけでなく本も紹介したい。テスト期間の問題は、共通教育と各学部で協議していただきたい。
- ・医学関連であれ、知識の伝達が多いため、思考するような部分も取り入れるように努める。
- ・口頭での説明が長くなりすぎないように気をつけたい。
- ・学生から 300 人のブレイクアウトルーム、zoom の問題が指摘されていたが、現状では止むを得ないかと思う。zoom の性能アップは無理だろうから、受講数を絞るとかしか考えられない。一方で、受講希望し満足している現状を見ると、受講数を減らすのが良いのかわからない。
- ・対面でのグループワーク、最終発表が実施出来なかったことは残念であった。Web ツールの習得の時間を用意することを改善策として考えている。
- ・教養科目として一般性や普遍性を充分考慮して内容や課題を洗練していく必要がある。ただし、高校の時に学習した科目を前提とはせず、一般人として備えて欲しい／磨いて欲しい時空（時間と空間）認識能力や論理的思考力、計算技法が何かについて丁寧に解説する必要がある。

#### 5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・15 回のうち最後の 3 回が遠隔によるデータ整理だけにせざるを得ず、学生のやる気を挫くことになったのが残念。
- ・講義内容や講義の仕方など、常に見直し、必要に応じてその改善や拡充を行う必要があると考える。
- ・Zoom での開講であったため、学生の参加状況がよくわからなかった。一部全く話を聞いていない学生も確認されたため、その対応を進める必要がある。
- ・高校時代に生物学を選択していた学生と、選択していなかった学生との間で基礎的知識量の隔たりが大きく、両者を満足させることのできる講義を行う難しさを感じている。
- ・受講生はリアルタイムよりもオンデマンド授業を好む傾向があることを知った。授業形態は教員の裁量に任せるが、早めの通知を心掛ける。
- ・今回は多くが対面授業で、その中でも最後のディスカッションの部分が高評価だった。
- ・講話者と受講生との双方向のやりとりについて、いますこし工夫が必要だと考えている。
- ・適宜、受講生からレスポンスを取ることを増やしていきたい。
- ・障害児教育という分野を様々な学部の学生に引きつけることの難しさを感じる。また、最終レポートは、理工系の学生にとってやや不利になる傾向がある。100 名の講義なので、遠隔の場合はグループディスカッションしやすいが、対面の場合どうするか悩む。全学部に引きつけた内容にしているが、もっと理工系の学生向けの内容を取り入れたい。
- ・遠隔授業の際のビデオ資料の視聴に問題があった。来年度は、ビデオ資料を YouTube に

アップロードするように変更予定。

- ・ zoom での授業ということもあり、300 名を受け入れているが、上述した成績評価等を考えると負担が極めて大きい。学生の提出物に目を通すだけで、忙殺されてしまう。対面の授業で受け入れられる人数が現実的ではないかとも思った。1 科目に履修生が集中しないよう、科目数を増やすなど、分散化して欲しい。
- ・ 授業以外での主体的な学習を評価する手段について検討していきたい。
- ・ 中間テストに対する個人的なフィードバックがほしいという意見があった。大人数のクラスなので、全員にフィードバックすることは難しいが、希望者にはしていきたい。
- ・ 毎年のことであるが、講義内容が講師間で内容の重複があると指摘される。数年前に内容の調整をしている。また、講師の講義内容には必要な情報であり、省くことができないと判断できる。しかし、1 回目の講義の時にその旨を伝えているにもかかわらず、内容の重複を指摘する学生がいる。
- ・ 国際教育は、時空を超えて協働できるオンラインを活用した授業が、実渡航とのハイブリッドの組合せで行われることが最善だと考える。その授業形態は、参加型双方向、反転学習が望ましいと考える。ファシリテータとしての技能向上や反転学習の教材準備に労力がかかるが、教育の転換点なのだと思う。グループワークの時間をさらに増やし、授業時間を超えないよう厳格に注意する。その上で、左記のような形態を、さらに洗練して進めるよう努力したい。
- ・ チャットの活用が学生の参加意欲を高めることに役立つと感じる。対面講義と比べ、オンライン講義の方がもっと学生が意見を言いやすい気がする。議論を増やしてほしいとの意見があるが、講義の内容だけで一杯だった。今後、時間の配分を見直していこうと思う。
- ・ 対面でのグループワークや最終発表を Web に切り替える必要が直前に発生し、ツールの習熟のないまま講義日を迎えることとなり、大変苦勞をした。Web ツール類の支援者が必要。
- ・ 文系学生の履修が皆無になってしまった。教養科目に相応しい内容か、疑義が持たれている模様。シラバスにより、理系・文系関係なく習得すべき技量を高めることを全面に出した内容に改訂していく。

## 高度教養科目

### 1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 集中講義のため、毎週講義との比較は困難であるが、復習・予習には 1～2 時間はかけていた。

### 2. 受講生が実感する学習成果

### 3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

(以上3項目) 3名のみからの回答であるが、「積極的に促していた」が100%であった。

5. 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等)

- ・本授業は、高評価を維持し続けている。授業準備には相当の時間と労力をかけており、発言力、協働能力、創造力、実行力等、学生の社会人基礎力を大きく底上げできる授業にまで成長した。現時点では、大幅な変更は考えられない。毎年小さな改善を進め、当面はこのままの授業実施を考えている。

掲載日：令和4年6月22日

文責：鹿児島大学共通教育センター

FD委員会委員長 今井 裕